

これからの、「地図に残る仕事。®」

昨年発生した品質・工程に関する事案を真摯に受け止め、
私たちは徹底的に議論し、自らを見つめ直しました。
これからも大成建設グループがお客様と社会から選ばれ続けるために必要なことは何か。
それは、“大切にしているもの”と“変わる覚悟”のもと、
社員がいきいきと輝きながらレジリエントな社会づくりに貢献していくこと。
私たちの価値創造と事業を通じた社会課題解決=これからの、「地図に残る仕事。®」にご期待ください。

私たちが大切にしているもの

[グループ理念]

人がいきいきとする環境を創造する

[大成スピリット]

自由闊達 価値創造 伝統進化

私たちの変わる覚悟を示すもの

企業風土改革

マテリアリティの見直し

【TAISEI VISION 2030】達成計画

グループ理念と【TAISEI VISION 2030】

「人がいきいきとする環境を創造する」というグループ理念、そして、それを追求するためにグループ全役職員が大切にしている考え方である大成スピリット「自由闊達」「価値創造」「伝統進化」。これらは、時代や外部環境が変わっても私たちが大切に続ける普遍的なものです。

この理念のもと、【TAISEI VISION 2030】に中長期的に目指す姿として「人々が豊かで文化的に暮らせるレジリエントな社会づくりに貢献する先駆的な企業グループ」を掲げ、その実現に向けて、【TAISEI VISION 2030】達成計画と中期経営計画（2024-2026）を策定し、取り組みを進めています。

いずれも、事業を通じてお客様と社会のサステナビリティ課題を解決する、という基本的な考え方がその根底にあります。

「理念体系」



ステークホルダーとの対話

大成建設グループは、ESGやSDGsの考え方を踏まえ、多くのステークホルダーに支えられていることを十分に認識した上で、自らが担う社会的な責任を果たし、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に努めることを、ステークホルダーに対する基本的な考え方としています。

その実現のためには、ステークホルダーとの対話による気づきを経営に活かすことが重要であると考えており、様々な取り組みを実施しています。

ステークホルダー	行動指針等	主な取り組み
社員・家族	<ul style="list-style-type: none"> 多様性を尊重し、組織内外の活発なコミュニケーションやネットワーク形成を通じて、役職員全員の能力が活かせる風通しが良く活力ある企業風土を醸成し、将来の人財^{※1}確保に向けた育成と社員のエンゲージメント向上を図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> 企業風土改革 社長メッセージ配信 エンゲージメントサーベイ 経営陣と社員との直接対話 <p>】P.23 企業風土改革 】【P.91 人的資本</p>
お客様	<ul style="list-style-type: none"> 広く社会を知った上で、お客様の立場に立ち、技術・ノウハウを結集するとともに、さらなる技術革新と創意工夫にチャレンジし続けることにより、お客様のニーズと予算に見合う最適な建設生産物・サービスを提供し、お客様からの期待と信頼に応えます。 	<ul style="list-style-type: none"> お客様の課題に対するソリューションの提供 お客様満足度調査 CSセンター(カスタマーサービスセンター) くらしと街のコンシェルジュ^{※2} <p>】P.41 競争力の源泉 】【P.100 品質</p> <p>【くらしと街のコンシェルジュ】</p>
協会会社・取引先	<ul style="list-style-type: none"> 相互の役割と責任を明確にし、公正で信頼し合える関係を築きます。 パートナーシップ構築宣言に基づき、サプライチェーン全体での共存共栄・付加価値向上に努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 倉友会、安全衛生環境協力会^{※3}との対話 サステナブル調達アンケート及びサプライヤー訪問 外国人技能実習生インタビュー 海外サプライヤー訪問 <p>】P.87 人権 】【P.99 安全</p>
地域社会・NPO・NGO・地球環境	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会との良好な関係を構築し、良き企業市民として社会との対話と協調を図るとともに、社会の発展に貢献するよう努めます。 持続可能な環境配慮型社会を実現します。 	<ul style="list-style-type: none"> 作業所・技術センター見学会 NPO・NGOとの対談・意見交換 社会・文化貢献活動 環境デュー・ディリジェンス <p>】P.83 環境デュー・ディリジェンス 】【P.87 人権</p>
株主・投資家	<ul style="list-style-type: none"> 株主の権利を尊重し、その実質的な平等性を確保し、権利行使に係る適切な環境整備を行います。 株主・投資家の皆様との建設的な対話・面談の充実を図るとともに、そのための正確な情報の提供等に努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 機関投資家・アナリスト向け決算説明会 個別ミーティング 海外IR <p>】P.47 財務責任者メッセージ 】【P.108 株主・投資家との対話</p>

※1:人材をかけがえのない存在と考え、統合レポートにおいては「人材」を「人財」と表記しています
 ※2:大成建設グループで展開する土地、建物、住まい等の多種多様な総合相談窓口
 ※3:倉友会は、当社と会員各社との連携強化を目的とする当社と基幹協力会社の会。安全衛生環境協力会は、当社と協力して労働災害防止活動、環境保全活動を行うことを目的とする協会会社の会

【リンク先タイトル】・・・当社Webサイトで詳細をご覧ください。 】【P.00 ページタイトル・見出し】・・・本統合レポートで関連情報をご覧ください。

統合レポート2024発行にあたって

今回の統合レポートで特に意識したことは「読者ファースト」です。私たちは、当社グループの持続的成長と企業価値向上のために日々ベストを尽くしていますが、その努力を实らせるためには、ステークホルダーの皆様へ「伝わる」ように発信して、ご理解いただくことが必要です。

ここ1、2年の当社グループの統合レポートについては、大成建設らしさが伝わらない、株式市場が必要としている情報が不足している等、厳しいご意見も頂戴していました。また、建設業界全体が厳しい事業環境におかれる中、稼ぐ力を向上するための変革の取り組みを丁寧に説明する重要性が一層高まっています。これらを踏まえ、過去の統合レポートの改善点を徹底的に洗い出し、内容を大幅に見直し、読者の皆様にお伝えすべき情報を分かりやすく説明することを心掛けました。

今、当社グループは本気で変わろうとしています。昨年発生した品質・工程に関する不適切事案への強い危機感から、役員・社員が分け隔てなく、「ありたい姿」とそれを実現するための方策について真剣な議論を続けています。そして、より良い企業風土を醸成し、今後の持続的な成長につなげるために様々な取り組みを始めています。

本統合レポートを通じて、私たちの変わる覚悟とその取り組み、長い歴史の中で培ってきた強みとこれからの成長に向けた戦略をご理解いただき、皆様との実質的な対話を深めて、企業価値の向上につなげてまいります。

CSuO(最高サステナビリティ責任者)副社長執行役員 **谷山 二郎**

コミュニケーションの全体像

株主・投資家向け情報

ESG・サステナビリティ情報

	株主・投資家向け情報	ESG・サステナビリティ情報
報告書	<ul style="list-style-type: none"> ●事業報告書 ●有価証券報告書 ●コーポレート・ガバナンス報告書 	<ul style="list-style-type: none"> ●環境・社会・ガバナンス報告書
Web	<ul style="list-style-type: none"> ●株主・投資家情報 https://www.taisei.co.jp/ir/ 	<ul style="list-style-type: none"> ●サステナビリティ https://www.taisei-sx.jp/
対話	<ul style="list-style-type: none"> ●機関投資家・アナリスト向け決算説明会 ●個別ミーティング ●海外IR ●証券会社主催カンファレンス ●株主総会 	<ul style="list-style-type: none"> ●ステークホルダー・ダイアログ

編集方針

当社グループが中長期的に目指す姿である「人々が豊かで文化的に暮らせるレジリエントな社会づくりに貢献する先駆的な企業グループ」を実現するための成長戦略及び企業価値向上のための取り組み等をステークホルダーの皆様に分かりやすくお伝えし、当社グループへのご理解を深めていただくことを目的としています。本レポートをコミュニケーションツールの一つとして、皆様との建設的・実質的な対話を進め、相互理解の醸成と経営の高度化の好循環につなげていきます。
なお、編集にあたっては、IFRS財団が推奨する「国際統合報告フレームワーク」、経済産業省による「価値協創のための統合的開示・対話ガイダンス 2.0」、GRIスタンダード等を参考にしています。

報告対象範囲	2024年3月31日時点の当社と当社グループ各社(連結子会社)(左記対象範囲と異なる場合は、注釈に明記しています)
報告対象期間	2024年3月期(2023年4月1日~2024年3月31日)(一部、この期間の前後の実績や活動内容も含まれています) 公開時期:2024年9月
第三者保証	P.125-128 有限責任 不審監査法人による財務情報に関する第三者保証 P.129(環境データ) EY新日本有限責任監査法人による環境情報に関する第三者保証

Contents

イントロダクション

- 7 価値創造の歴史
- 9 財務・非財務ハイライト

11 トップメッセージ

19 Part 1 変わる大成建設

- 21 目指す姿の実現に向けて
- 23 企業風土改革
- 25 特集①「私たちの企業風土改革」
- 27 マテリアリティの見直し
- 31 特集②「ものづくりへの矜持」
- 33 社外取締役・取締役会議長座談会

37 Part 2 大成建設の価値創造 ~これからの、「地図に残る仕事。®」~

- 39 大成建設グループの価値創造プロセス
- 41 競争力の源泉
- 43 [TAISEI VISION 2030]達成計画
- 47 財務責任者メッセージ
- 51 経営の基本方針
- 54 事業基盤の整備方針
- 55 中長期事業戦略
 - グループ国内建築事業
 - グループ国内土木事業
 - グループ国内開発事業
 - グループ海外事業
 - グループエンジニアリング事業
- 65 新たなビジネスモデル
- 67 事業変革の進め方
- 69 中期経営計画(2024-2026)

71 Part 3 サステナビリティ

- 73 CSuOメッセージ
- 75 サステナビリティの取り組み
- 77 環境・エネルギー
 - グループ長期環境目標 (TAISEI Green Target 2050)
 - 統合的な環境経営情報開示 (TCFD・サーキュラーエコノミー・TNFD)
 - 環境デュー・ディリジェンス
- 85 特集③「新時代の建設システム」
- 87 人権
- 91 人的資本
- 95 技術
- 96 DX
- 99 安全
- 100 品質

101 Part 4 ガバナンス

- 103 コーポレート・ガバナンス
- 113 コンプライアンス
- 116 リスクマネジメント
- 119 社外監査役座談会

データセクション

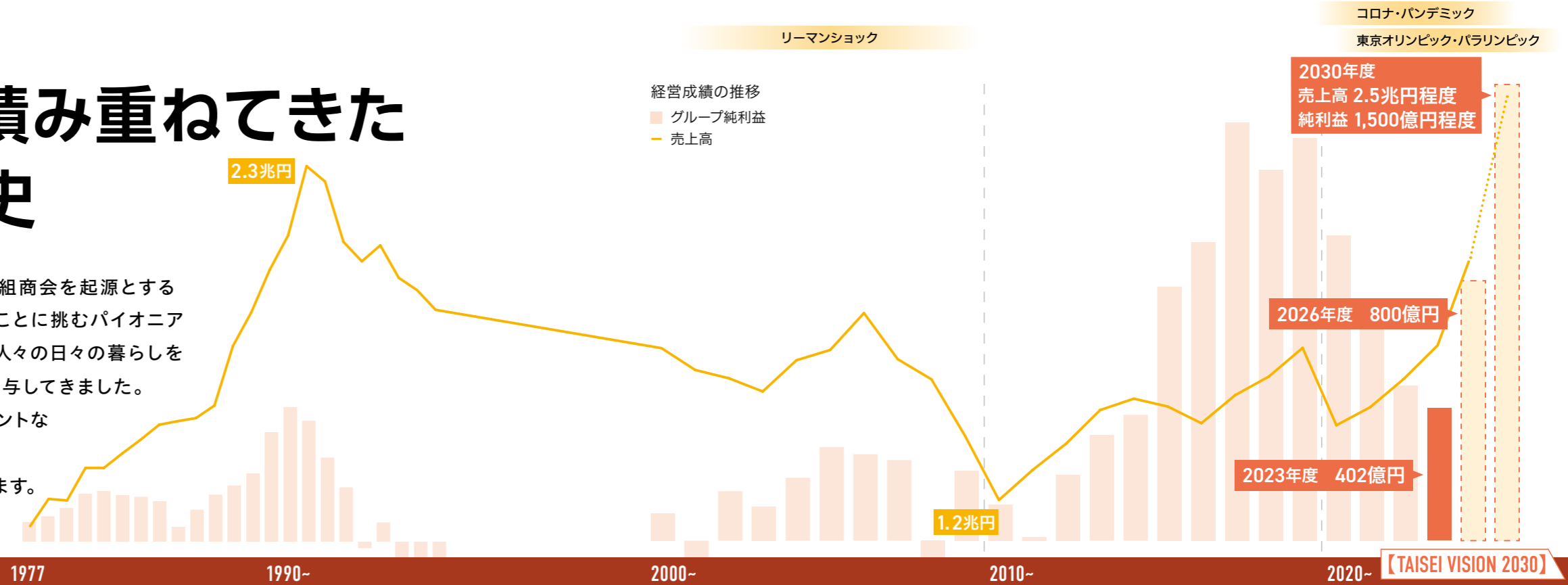
- 123 主要財務データ
- 125 連結財務諸表
- 129 ESGデータ
- 131 主な外部評価と参加イニシアチブ
- 132 会社情報・株式情報

大成建設の経営理念を表現するシンボルマークとスローガン。地球の大地と海、太陽といった自然環境と均衡を図りながら活動する人間と当社グループを表しています。



挑戦と革新を積み重ねてきた 価値創造の歴史

大倉喜八郎が1873年(明治6年)に設立した大倉組商會を起源とする大成建設グループ。以来、創業者の「前例のないことに挑むパイオニア精神」を受け継ぎ、常に時代の変化を先取りして人々の日々の暮らしを支える社会インフラを創り出し、社会の発展に寄与してきました。今後も、人々が豊かで文化的に暮らせるレジリエントな社会づくりに貢献するために、「これからの、「地図に残る仕事。®」」に挑戦し続けます。



1873~

1873 大倉喜八郎、大倉組商會設立
1887 有限責任日本土木会社を設立(初の建設業法人)
1917 株式会社大倉土木組を設立(初の建設業株式会社)

1946~

1946 大成建設株式会社と改称
1958 旧国立競技場
1964 富士山頂レーダー基地

1980~

1985 南北備讃瀬戸大橋(下部工、北工区)
1991 東京都第一本庁舎
2005 中部国際空港旅客ターミナルビル

2010~

2013 ポスボラス海峡横断鉄道トンネル(トルコ共和国)
2019 国立競技場
2021 国道325号 新阿蘇大橋

2024~

【国内初】建物のライフサイクルCO₂排出量を
実質ゼロとする「ゼロカーボンビル」を実現へ
~大成建設グループ次世代技術研究所研究管理棟~

気鋭の技術者が集結し 振興する日本経済に即応

明治財界の巨頭と協力し国内初の法人建設企業を設立。急速に発展する日本を建設事業で支える。



1883 鹿鳴館

戦後の復興と 高度経済成長への尽力

株式公開により工事の大規模化・機械化に対応。戦後の荒廃から興隆する産業界の要請に応える。



1964 富士山頂レーダー基地

技術革新と総合力で 国家的プロジェクトを遂行

高難度のプロジェクトも建築・土木・エンジニアリングの高度な技術で対応。次代を切り拓く。



1985 南北備讃瀬戸大橋(下部工、北工区)

サステナブルな社会の 実現に貢献

持続可能な成長と企業価値向上を目指すサステナビリティ経営に、業界の先陣を切って取り組む。



2019 国立競技場

新たな価値と豊かな暮らしを創出する “これからの、「地図に残る仕事。®」”

少子高齢化に伴う担い手不足、時間外労働上限規制への対応、建設物価の高騰等の問題に直面する中、レジリエントな社会の実現に向け、事業を通じたお客様と社会の課題解決により、新たな価値を共創する。



大成建設グループ次世代技術研究所(イメージ)



浮体式洋上風力(イメージ)

社会への影響

近代的土木工事の先駆けである琵琶湖疏水閘門や、東京地下鉄道(上野-浅草間)等のプロジェクトを成功させ、日本近代化の礎を築く。

日本初の超高層ビルの建築を担い、高度に発展した日本の国力を世界に誇示。新技術を次々と開発し、大工事を成功させた。

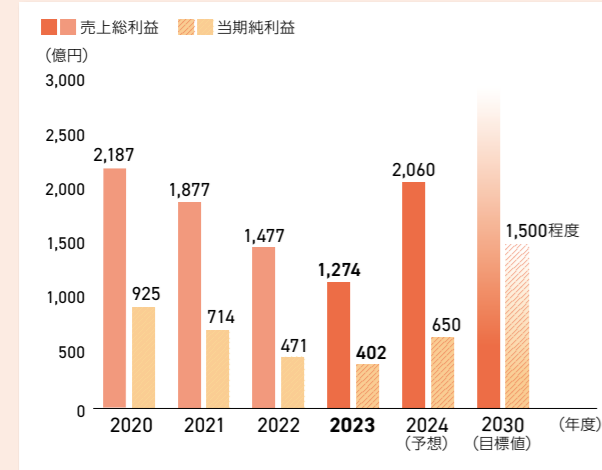
ダムや発電所等の大型インフラ工事に次々と着手。環境問題に注目が集まる中、業界でも先行して取り組みを進めた。

河口の流れを止めない東京国際空港(羽田)D滑走路や、国産木材を使用し周辺の自然と調和する国立競技場等、環境と共存し文化を守る建設を形に。

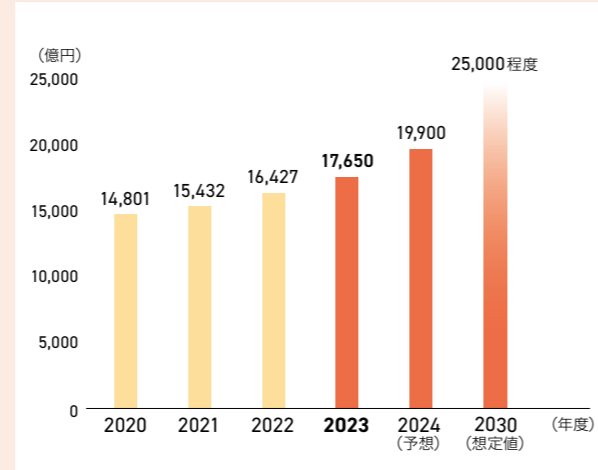
「人々が豊かで文化的に暮らせるレジリエントな社会づくりに貢献する」という使命を掲げ、カーボンニュートラルに向けたゼロカーボンビルの実装や、人手不足をはじめとする様々な社会課題の解決に向けたデジタルツイン・AI・リモート技術の活用等、時代の転換期を技術で牽引する。

財務ハイライト

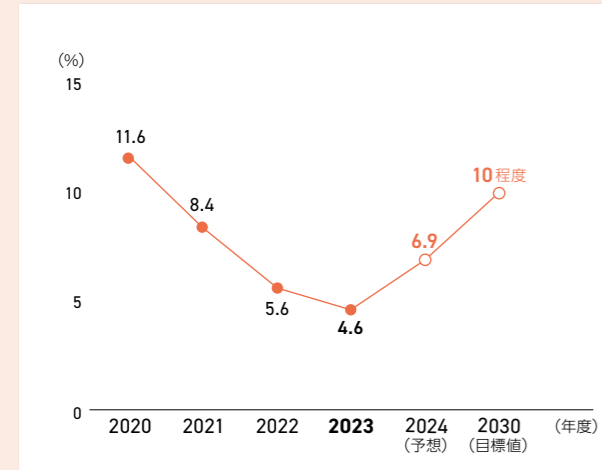
売上総利益/親会社株主に帰属する当期純利益



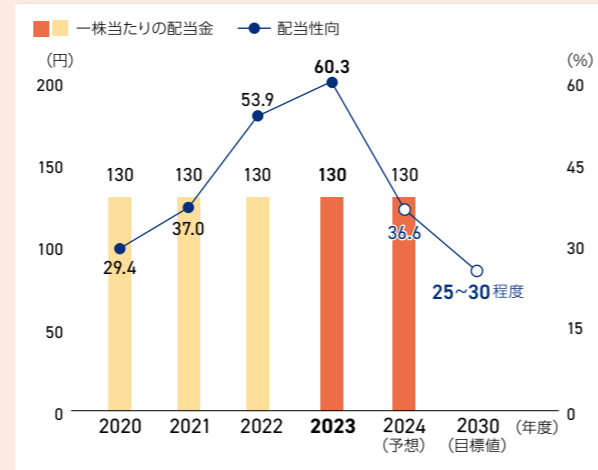
売上高



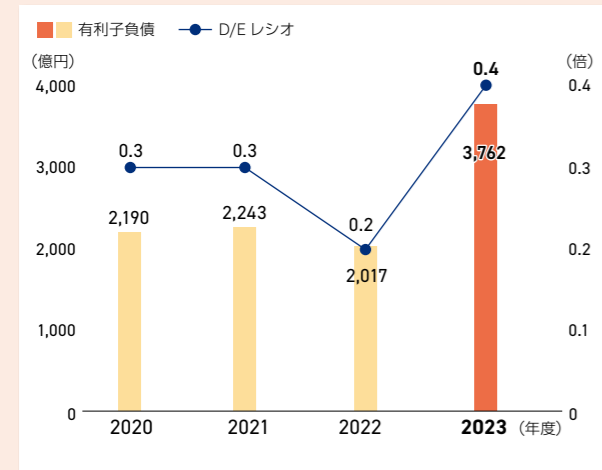
自己資本利益率 (ROE)



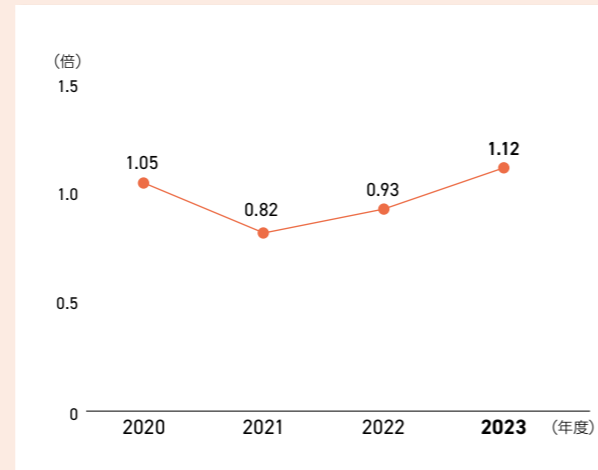
一株当たりの配当金/配当性向



有利子負債/D/Eレシオ

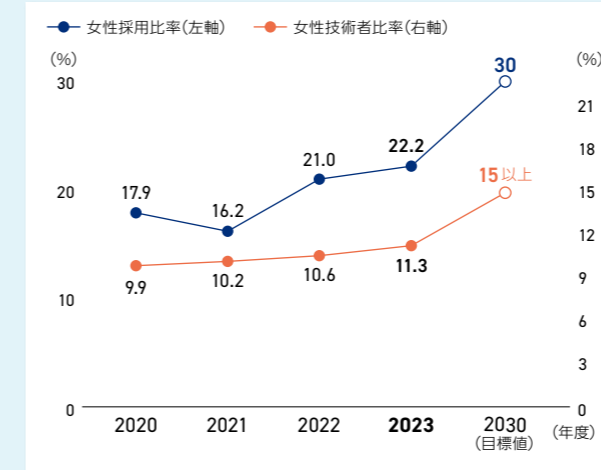


株価純資産倍率 (PBR)

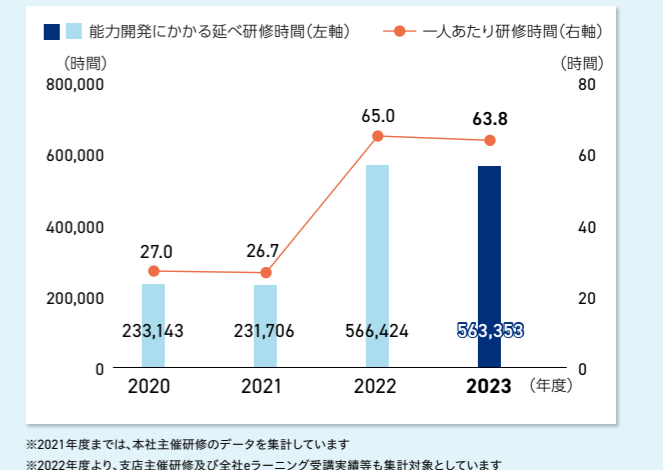


非財務ハイライト

女性採用比率 (単体)/女性技術者比率 (単体)

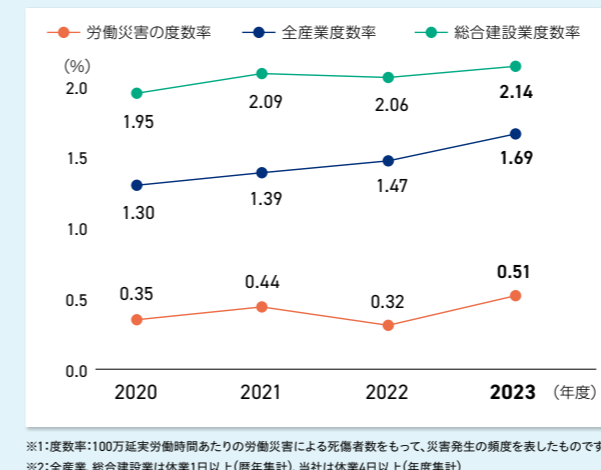


能力開発にかかる延べ研修時間 (単体)/一人あたり研修時間 (単体)



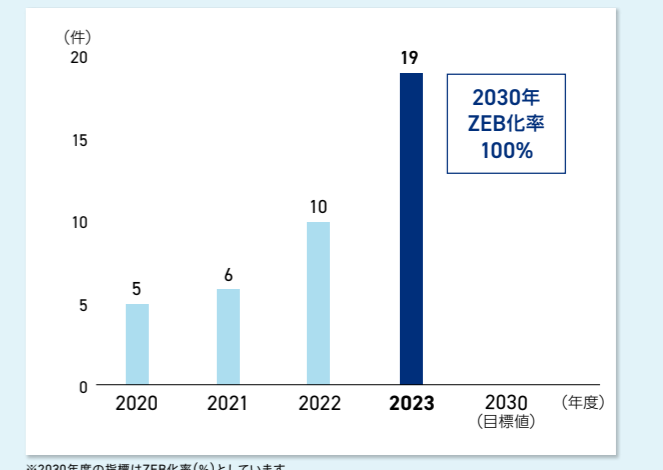
※2021年度までは、本社主催研修のデータを集計しています
 ※2022年度より、支店主催研修及び全社eラーニング受講実績等も集計対象としています

労働災害の度数率 (単体)/全産業度数率/総合建設業度数率^{※1※2}



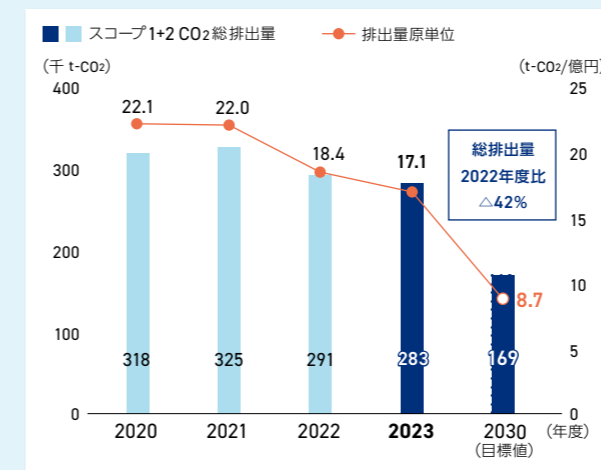
※1:度数率:100万延実労働時間あたりの労働災害による死者数をもって、災害発生頻度を表したものです
 ※2:全産業、総合建設業は休業1日以上(暦年集計)、当社は休業4日以上(年度集計)

ZEB化建物受注件数 (単体)



※2030年度の指標はZEB化率(%)としています

スコープ1+2 CO₂総排出量/売上高あたりのCO₂排出量 (原単位)



スコープ3 CO₂総排出量

